

地球は温暖化・防止へ大きな第一歩

マンション問題総合研究所 理事長 喜田大三

桜が早く咲く

地球は確かに温暖化しています。七十二年前の小学一年生の時、播州平野には雪も降り、桜も四月入学式後に開花。国語の時間に教科書の『サイタ サイタ サクラガサイタ』を実感もって読んだことを今でも覚えています。この五十年間に地球温暖化で、桜の開花は全国平均五日も早くなっています。特に、二〇〇二年は十二日も早く開花しました。

本年の各地のソメイヨシノ開花日を気象庁のホームページで調査結果。(表参照)一般に、開花は平年より二〜七日早くなっています。

| | | | |
|----|------|----|------|
| 東京 | 3/21 | 京都 | 3/27 |
| 熊谷 | 3/27 | 岡山 | 3/29 |
| 前橋 | 3/28 | 広島 | 3/22 |
| 水戸 | 3/30 | 福岡 | 3/23 |

満開は開花の四日から八日後。

気温上昇を気にする 果樹栽培

果樹は北のリンゴ、南のミカンと言われるように、特に気温によって最適な栽培地が異なります。地球がさらに温暖化すれば、適地は北に移行するでしょう。そこで、温暖化の果樹栽培への影響予測と対策が研究されています。

気温上昇は未来でなく現実の問題にもなっています。夜の気温が下がらない地域では、表皮の着色不良や着色遅れが、リンゴ、カキ、ブドウ、ナシ、ウンシュウミカンなどで広くみられます。青々としたミカンでも十分食べられます。

着色するまで収穫をおくると、果肉が老化して収穫量の減少、果実の軟化、成熟異常、貯蔵性の低下などが二次的に発生します。栽培農家は、このような面倒な問題を

少しでも解決するため、栽培技術を種々工夫しています。世界各所で増える異常気象

世界各所で増える異常気象

現在、世界各所で地球温暖化に関連しているといわれる異常気象が多発しています。猛暑、熱波、冷夏、台風、ハリケーン、豪雨、大洪水、干ばつなど。当然ながら、自然生態、農業、商工業、生活環境、健康、生命はひどい被害をうけています。以下に、最近の事例を紹介します。

二〇〇三年、日本は冷夏でしたが、ヨーロッパはすごく暑くて、三十五度以上の熱波で、多数の死者がでました。

(次の項目で説明)

二〇〇四年、日本の夏は高温の記録を更新。梅雨には集中豪雨、夏から秋にかけ十個という最多記録の台風。一方、隣の中国南部は五十年間で最もひどい干ばつでした。

二〇〇五年、アメリカ南部をハリケーンが襲いました。その惨状をテレビや新聞で知っておられるでしょう。被害実態を伝えつづけた新聞二社

が米報道界最高の〇六年ピュリツァー賞を本年四月十七日に授与されました。

熱波による過剰死亡事件

二〇〇三年八月、ヨーロッパは熱波におそわれ、多くの死者がでました。熱波も地球温暖化の異常気象の一つ、日最高気温が三十五度以上の日が五日以上連続する現象とされています。

表には、西ヨーロッパ各国について、平年死亡人数に比べ過剰に死亡した人数および過剰死亡率を示しています。熱波による過剰死亡者は二万二千余人と推定。フランスは死亡数も率も最高でした。

| 国名 | 過剰死亡数 (率) |
|-------|--------------|
| イギリス | 2,045 (16%) |
| フランス | 14,802 (60%) |
| イタリア | 3,134 (15%) |
| ポルトガル | 2,099 (26%) |

最新報道では、過剰死亡者数を見直したら、四万余人と二倍に増えています。

なお、過剰死亡率は高年齢ほど顕著で、七十から九十四歳で七十%、それ以上では百二十%にもなります。

社団法人 高層住宅管理業協会 正会員

三興管理株式会社

東京都千代田区神田須田町1-7

電話番号 03-3252-7367

FAX番号 03-3255-2287

地球温暖化は国際問題

平均気温は、過去百年間に約一度上昇、今後百年間に約二〜四度上昇と予測。短期の異常気象と長期の温暖状態によって自然界や人間生活が深刻な影響を受けると予想。地球温暖化は早急に防止すべき重要な国際問題です。

一九九二年、ブラジルで国連環境会議（地球サミット）を開催。私たちは地球環境をかってない勢いで悪くしているので、地球温暖化など八つの事象（註）を解決し、地球環境を保全することにした。

一九九三年、日本でも二十六年前の公害対策基本法（一九六七）を廃止し、その七つの公害に地球環境の八つの事象（註）を加えた環境基本法を制定しました。

（註）◎七公害…大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、悪臭、騒音、振動、地盤沈下

◎地球環境の八事象…地球温暖化、オゾン層の破壊、海洋汚染、生物種の減少、有害廃棄物の越境、酸性雨、砂漠化、森林減少。

温暖化ガス削減の

京都議定書会議

一九九七年十二月、世界約百七十ヶ国が参集し、日本が議長国になって地球温暖化防止の国際会議が開かれました。ご存知のように、化石燃料を燃やした際に排出する二酸化炭素は温室効果ガスまた温暖化ガスといわれ、温室のガラスのように、熱が外にでていくのを防ぎます。メタン・フロンなども同性質ですが、主たる温暖化ガスは二酸化炭素です。

二酸化炭素は経済成長の指標で、北半球の先進国が大量に排出しています。そこで、表のように、温暖化防止のため一九九〇年を基準に各国の削減率を決め、二〇〇八〜十二年に目標を達成する京都議定書をつくりました。なお、増減のない国、増加する国もあります。

関係国が京都議定書を批准して発効します。

| | |
|-------|-----|
| 日本 | -6% |
| EU | -8% |
| スイス | -8% |
| ハンガリー | -6% |
| カナダ | -6% |
| アメリカ | -7% |

京都議定書が発効

小泉総理メッセージ

二〇〇五年二月十六日に、地球の温暖化を防ぐ京都議定書が発効されました。その翌日の内閣メールマガジン第一七六号に、小泉総理はメッセージをよせています。

総理は二〇〇六年九月に退任されますが、その趣旨は引き継がれると思います。長文を少し省略して紹介します。

【本文】小泉純一郎です。発効当日、八年前に議定書を採択した京都国際会議場に、議定書作成に努力された世界各国の関係者や一般市民が集まり、発効の記念行事が行われました。私も官邸からテレビ会議で参加しました。

地球温暖化の原因とされる二酸化炭素などの温室効果ガスを排出し続けられ、地球規模で、そして将来の世代にわたって、さまざまな影響が生じます。

日本は、議定書の採択以来、一刻も早く発効するように、各国に批准を働きかけてきました。地球温暖化防止に

世界が協力していく枠組みがようやく発効したことを心から歓迎します。

日本は、世界の先頭に立つて地球温暖化対策を進めていきます。日本の太陽光発電や燃料電池、低公害車など優れた環境技術を各国へ普及し、地球規模での温暖化対策に貢献していきたいと思えます。

米国など温室効果ガスを多量排出している国で未だ批准していない国、中国など義務のない国が温暖化防止に協力していきけるように、努力してまいります。

日本の温室効果ガス削減の目標達成は決して簡単ではありませんが、政府の公用車を三年間ですべて低公害車に切り替えたように、これからも政府が率先して対策をとるとともに、国民一人ひとりの行動を支援したいと思います。

京都議定書の発効は、地球温暖化防止に向けた大きな一歩です。かけがえのない地球を子や孫の世代に、より美しく保全していくために、世界のみなさんとともに協力していきましょう。



柏原塗研互業株式会社

建設業許可 国土交通大臣許可 特14-3103
資本金 250,100千円

創立 昭和24年3月
売上高 18,441,150千円 (2004年1月末)

リフォーム事業部
〒210-0834 神奈川県川崎市川崎区大島3-36-7
TEL 044-211-1596 FAX 044-211-1597

北関東営業所
〒335-0034 埼玉県さいたま市南区辻8-19-12
TEL 048-837-2791 FAX 048-837-2792

フリーダイヤル0120-00-4095 ホームページ <http://www.kashiwabara.co.jp>